

## 滋賀県能登川にファブリカ村オープン



2009年10月23日東近江市能登川にファブリカ村オープンの式典が行われた。主宰は北川織物工場、村長はTDA会員であり、プランナー北川陽子氏である。彼女がこの地に、かすり工房ファブリカを立ち上げて今年で10年なり、亡父が北川織物工場を創業されて50年になる。

この記念すべき年に、「物や人が集まるアートスペース」としてファブリカ村をオープンさせた。工場として稼働していた頃をそのままに、のこぎり屋根の外観を残し、ものづくりを愛する人たちの集まるスペースとして、より幅広い可能性を託す。

「ステージ」「アトリエ」「ギャラリー」「カフェ」4つのスペースを兼ねそろえた空間として生まれ変わった。ちょうど1年前の10月、滋賀県出身の造形作家、茗荷（みょうが）恭介氏との出会いが、彼女の思い描いていたファブリカ村設立という夢の背中を押した。

造形と布のコラボ「二人展」に茗荷氏と出展した彼女は、彼の人柄と人間味溢れる作品に感銘し、今回のファブリカ村の内装プロデュースを依頼した。そして1年後の式典の今日、昭和初期に生まれた織機は、オブジェとしてよみがえり、のこぎり屋根の小窓から差し込む緩やかな日差しの下でその存在感を示していた。茗荷氏自身の作品である木製のいすやテーブルと北川氏制作の麻織物とのコーディネートが訪れた人たちの気持ちを癒してくれる。

オープニングは、地元水車太鼓のメンバーによる躍動感溢れる太鼓のパフォーマンスで始まり、茗荷氏や市長の温かな声援の挨拶と続く。TDA理事長寺井氏も壇上でエールを送った。父と「ものづくり」に励んだ思い出の地が、新たな創造のスペースとして甦る。彼女とその夢の実現を支えた家族の喜びが我々にも伝わってくる。地元上げてのエールが感動的だ。

そして東京からかけつけた、メイドインジャパンプロジェクト(株)代表赤瀬浩成氏の講演へと移る。メイドインジャパンの感性を、今のライフスタイルにいかにかき混ぜるか、経験談に基づき力強く語られる氏のセミナーに、皆元気づけられた。

取材のネタはつきないが、このファブリカ村で展示会をしてみたい。雑貨屋さんをしてみたい。音楽活動をしてみたい。カフェしてゆったり時間を満喫してみたい。興味を持たれた方は下記アドレスにクリックしていただきたい。

[www.faburicamura.com](http://www.faburicamura.com)

(吉村 千恵子)

のこぎり屋根の工場(右建物)  
 (左から)北川 順子氏、北川 たみ氏、北川 陽子氏  
 オープニングは水車太鼓で始まる  
 機械の実演で力強く心地よい音を体感  
 熱く語られる赤瀬 浩成氏の講演